



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ベニイトトンボ

学名: *Ceriagrion nipponicum*

イトトンボの仲間では、一番最近県内で見つかったトンボです。名前の通り紅色（というより朱色に近い）をしているイトトンボです。同属のキイトトンボより少し小さく、色と大きさ以外はよく似ています。

30年ほど前は、県内ではいないものと思われていましたが、20年ほど前から見つかるようになりました。一説には、ベニイトトンボが産卵した水草が、水鳥の足について運ばれ、運ばれた先で成虫になって広がったという見方もあります。

広島県ではまだ発見例がありませんが、よく似たリュウキュウベニイトトンボも分布を拡大しているようです。こちらは、元々本州にはいなかったトンボで、水草についたリュウキュウベニイトトンボの卵を知らないで移動したことによるといわれています。

備北地域ではまだ発見されていませんが、今後、水深が浅く、植生の豊かな池の周辺で見つかる可能性があります。キイトトンボと同様な環境にいるので、キイトトンボが見つかったら、その周辺にはベニイトトンボがいる可能性が高いと言えます。成虫は、6月から9月に見られます。



【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

